# I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

## Vol. 23
## Ella Fitzgerald【エラ・フィッツジェラルド】
### ～“ファースト・レディ・オブ・ソング”と称された永遠のジャズ・シンガー～

写真提供：ユニバーサル・ミュージック

### Profile

1917 年 4 月 25 日米国ヴァージニア州ニューポート・ニューズ生まれ。本名は Ella Jane Fitzgerald。誕生後間もなくして両親が別れ、母親とそのボーイフレンドと共にニューヨークへ移住。妹の誕生後、一時期孤児院に預けられ、14 歳の時には母親が心臓発作で死亡して孤児となるなど不遇な幼少期を送った。34 年、17 歳の時にニューヨークの「アポロ劇場」で行われたコンテストで優勝。同年チック・ウェッブ楽団の専属歌手となる。翌 35 年にレコード・デビューし、同年 5 月に吹き込んだ「ア・ティスケット・ア・タスケット」が大ヒットし一躍注目される。その後、ジャズ・シンガーとして独立。46 年ノーマン・グランツの傘下に入り、J.A.T.P.（Jazz At The Philharmonic）に参加。翌 47 年にベーシストのレイ・ブラウンと結婚。養子を迎えてレイ・ブラウン Jr. と名付けた（後に離婚）。53 年には初来日を果たす。55 年暮れにデッカからヴァーヴに移籍し、その後立て続けに大ヒット作品を連発。72 年末に内障眼のために失明が懸念されて引退の噂も出たが、73 年夏のジャズ祭で見事復活。93 年に糖尿病の合併症のため両足を切断するなど、晩年は持病の糖尿病に苦しんだ。生涯 200 枚以上の作品に参加し、売上は 4000 万枚以上、グラミー賞 13 回の受賞歴を誇り、イェール、ダートマス、プリンストン大学より名誉博士号を授与され、第 43 代アメリカ合衆国大統領ジョージ・W・ブッシュからは「大統領自由勲章」を授与された。また、サラ・ヴォーン、カーメン・マクレエと共に“モダン・ジャズ・ヴォーカルの御三家”と称され、エラ自身「Lady Ella」「The First Lady of Song」と称えられた。1996 年 6 月 15 日カリフォルニア州ビバリーヒルズの自宅で死去。享年 79 歳。

# EF's Great Album

ヴァーヴに移籍後の 1956~1964 年辺りに発表されたコール・ポーターやデューク・エリントンの楽曲を歌ったソング・ブックをはじめ、他にも多くの名盤が残されています。

## グラミー賞受賞作品！　エラのライヴの名盤！！

**マック・ザ・ナイフ~エラ・イン・ベルリン**
**エラ・フィッツジェラルド**
（ユニバーサル・ミュージック：UCCU-9807）

エラ・フィッツジェラルド（vo）、
ポール・スミス（p）、ジム・ホール（g）、
ウィルフレッド・ミドルブルックス（b）、
ガス・ジョンソン（ds）

1. 風邪と共に去りぬ 2. ミスティ 3. ザ・レディ・イズ・ア・トランプ
4. 私の彼氏 5. サマータイム 6. トゥー・ダーン・ホット 7. ローレライ
8. マック・ザ・ナイフ 9 ハウ・ハイ・ザ・ムーン

1960 年 2 月 13 日ドイツ・ベルリンの「ドイチェランド・ホール」で行われたライヴの実況録音。この作品で第 3 回グラミー「女性歌手ベスト・アルバム賞」「女性歌手ベスト・シングル賞（「マック・ザ・ナイフ」で）」を受賞！　12,000 人の聴衆を前に圧巻のヴォーカルを披露し、このライヴで初めて歌った『三文オペラ』からの楽曲「マック・ザ・ナイフ」は名実共にエラの不滅の名唱となった。ラストの「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」ではアドリブ、スキャット、ヨーデル風の裏声も披露し、これまた圧巻！　数あるノーマン・グランツによる録音の中でもこのライヴ盤はベストといえる一品。パワフル且つ愛くるしいエラのヴォーカルの魅力が満載！　ジャケットの満面の笑みも最高です。

## エラが歌うクリスマス・ソング集！

**スウィンギング・クリスマス**
**エラ・フィッツジェラルド**
（ユニバーサル・ミュージック：UCCV-3001）

エラ・フィッツジェラルド（vo）、他

1. ジングル・ベル 2. サンタが町にやってくる 3. 楽しいクリスマスを
4. ホワット・アー・ユー・ドゥーイング・ニュー・イヤーズ・イヴ
5. 楽しいそりすべり 6. クリスマス・ソング 7. グッド・モーニング・ブルース
8. レット・イット・スノウ 9 ウインター・ワンダーランド（他、全 12 曲）

1960 年に録音されたエラにとって初となるクリスマス・アルバム！　フランク・デヴォール・オーケストラの演奏をバックにクリスマス・シーズンにはお馴染みのポピュラー・ソングの名曲 12 曲を披露。アルバム・タイトル通りエラならではの抜群のスウィング感と共に、あたたかく明るく楽しげに歌い上げている。1 曲目の「ジングル・ベル」から一気に楽しいクリスマスの雰囲気に染まり、ナット・キング・コールの名唱で知られる「クリスマス・ソング」～ビング・クロスビーの名唱で知られる「ホワイト・クリスマス」のエラ・ヴァージョン、ブルージーな「グッド・モーニング・ブルース」等も最高！　子供が聴いても楽しくなるようなお薦めのクリスマス・ジャズ・アルバム＆永遠の名作です！

## エラ・フィッツジェラルド復活の勇姿

**ライヴ・アット・カーネギー・ホール**
**エラ・フィッツジェラルド**
（ソニー・ミュージック：SICP-20118）

エラ・フィッツジェラルド（vo）、
トミー・フラナガン（p）、
ジョー・パス（g）、
キーター・ベッツ（b）、
フレディ・ウェイツ（ds）、他

[Disc-1] 1. オープニング・アナウンスメント・バイ・エディ・ベアフィールド / レッウ・ゲット・トゥゲザー 2. ストンピン・アット・ザ・サヴォイ
3. ア・ティスケット・ア・タスケット 4. インディアン・サマー
（他、[Disc-1] 16 曲、[Disc-2] 17 曲、全 33 曲）

1973 年 7 月 5 日ニューヨークの「カーネギー・ホール」で行われた『ニューポート・ジャズ・フェスティバル」～“エラのタベ”の模様を収めた 2 枚組ライヴ盤で、72 年に眼病により引退の噂も流れたエラが見事に復活を証明したコンサートの模様を収めた記録。若く福やかだった頃から比べると見違えるほどやせ細り、牛乳ビンの底のような眼鏡が一層老いやつれた印象を与えてしまうが、その迫力ある歌声が不変なことに驚かされる。旧知のミュージシャンたちがエラを盛り立て、このライヴにかけるエラ自身の強い意気込みもを感じさせる。スタンダードからポップスまでレパートリーも幅広く、一押しの「レモン・ドロップ」等、満員の観衆を完全に魅了するヴォーカルの女王エラの真髄を聴いて欲しい！

## レイ・ブラウン・ジュニア

あまり知られていないが、エラが 1947 年に結婚したジャズ・ベーシスト＝レイ・ブラウンとの間には一人息子がいる。実際にはエラの妹（父親は異なる）の子供を養子に迎えた形だが、名前はレイ・ブラウン・ジュニア（Ray Brown Jr.）。1949 年生まれで現在 61 歳。ジャズ＆ブルースのピアニスト＆シンガーとしてアメリカで活動している。元々ドラマーだったが、70 年代の頃からプロのミュージシャンとして活動し、80 年代後半にはアメリカ国防総省関連のツアーで日本にも訪れている。2001 年に『Slow Down for Love』でアルバム・デビューを果たし、その後もコンスタントにアルバムを発表している。最新作は 2008 年 9 月に発表した『Friends and Family』で、娘（エラの孫）がヴォーカルで参加している他、母エラと父レイが共演した「How High The Moon」で両親の演奏に自身のヴォーカルを重ねて夢の親子共演も果たしている！

## 切手になったエラ

米国郵便局（US Postal Service）が 1978 年から毎年発行している切手「Black Heritage（黒人の遺産）」シリーズから、2007 年 1 月に 30 枚目の切手としてにエラ・フィッツジェラルドが選ばれ同年記念切手が発売された（値段は 39 セント）。

## エラ初来日！

エラが記念すべき初来日を果たしたのは 1953 年 11 月、ヴァーブの名プロデューサー、ノーマン・グランツ率いる「J.A.T.P. オールスターズ」初来日の時。若きオスカー・ピーターソン・トリオを従えて東京の日劇で熱唱を披露した。この時に夫であったレイ・ブラウン（b）も同行しているが、この来日前後に離婚している。翌月にはサッチモも初来日を果たしているが、日本でジャズが最も輝いていた時代だったようだ。